

会 議 録

1 会議名

第3回高士区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

自主的審議につなげるための高士区の現状分析について（公開）

3 開催日時

平成26年6月27日（金）午後6時30分から午後7時40分

4 開催場所

公民館高士分館 2階 中会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：飯野秀一、上野忍、太田早苗、小林トシ子、塩坪恭平、
嶋田征夫、中川英一、保坂善夫、横山とも子

・事務局：中部まちづくりセンター 北島センター長、恩田係長、小林主事

8 発言の内容

1 開 会

【小林主事】

定刻になりましたので、平成26年度第3回高士区地域協議会を開催します。本日の出席人員は9名です。飯野副会長から欠席の連絡を頂いております。横川委員からは連絡いただいておりませんので、後ほど来ていただけるものと思います。

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立することを報告します。

2 会長挨拶

【小林主事】

はじめに、塩坪会長からご挨拶をいただきたいと思いますので、よろしくお願いし

ます。

【塩坪会長】

皆さん、こんばんは。暑い日から涼しい日と変わり目の激しい気候ですが、皆さんお変わりないと思います。色々と行事が重なりお疲れのところだと思いますが、本日はお集まりいただき、ありがとうございます。

地域活動支援事業が他の区では、今も審議の段階のところもあるそうですが、高士地区は皆さんのおかげで今年は早く終了しまして、これから新しく自主的審議を行っていきたいと思います。自主的審議についても、昨年の6月で決まりまして、それからが進んでおりませんが、これから遅れを取り返して、他の地区の皆さんに追いつきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【小林主事】

ありがとうございました。それでは、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長から議長を務めていただきます。よろしくお願いいたします。

【塩坪会長】

以降の議事進行を務めてまいります。終了時間を午後8時と設定していますので、皆さんのご協力で時間どおりに終わらせたいと思います。スムーズな進行にご協力をお願いします。

本日の会議録の確認者は名簿順に上野委員にお願いしたいのですが、よろしくお願いいたします。

3 議 題

○自主的審議につなげるための高士区の現状分析について

【塩坪会長】

それでは、本日の議題に入らせていただきます。「自主的審議につなげるための高士区の現状分析」についてですが、事務局から資料に沿って説明をお願いします。

【小林主事】

－ 資料に基づき説明 －

【塩坪会長】

ありがとうございます。事務局から説明をいただきましたが、昨年6月の会議で「持続可能なコミュニティのあり方」について検討していくことを決定しましたが、支援

事業が3次募集でしたり、交流会、研修会等が重なり、時計の針が止まったような状態でした。今日は、具体的にどのような進め方をしていくかの協議に入りたいと思います。

長い間、休眠状態のような状態でありましたので、先日、事前打合せを行い、正副会長と事務局で案を考えましたので、先に事務局から案を説明していただきたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

ーよしの声ありー

よろしければ、事務局からお願いします。

【小林主事】

ー資料に基づき説明ー

【塩坪会長】

ありがとうございました。事務局から詳しく説明していただきましたが、地域協議会と若い世代との意見交換会を行うということで決めてよろしいでしょうか。

ーよしの声ありー

では、次に進めたいと思いますので、「若い世代との意見交換会」という事を目標に、今ほど事務局から説明をいただきました、どのようにして若い世代の意見を引き出すかということについて審議したいと思いますので、どしどし意見を出していただきたいと思います。

【飯野秀一委員】

若い世代の特定というのが必要ですね。年齢とかそれはよいだろうけど、どういう人が住んでいるとか、世帯持ちとか、独身とかあるでしょうし、PTAというのも確認してもよいだろうし、そこら辺をまず絞り込みする必要があると思いますね。

【塩坪会長】

あと、ありませんか。今の意見についてはよろしいでしょうか。

【保坂委員】

昨年6月の話で忘れちゃって、何を喋ったのか覚えていませんけど。

確か、高士まつりについて若い人から運営をしてもらって、若い力で高士まつりを盛大にやっていただきたいということで、話をしたのではないかなというように思います。高士まつりは町内会長とかが中心でやっているものですから、マンネリ化したっていうか、これ以上伸びないっていう状況で、集まる人もだいたい決まっています、

人数もほとんど決まっているような状況なので、やっぱり若い人が中心になっていただきたいと思います。

例えば、「清里祭」みたいに盛大にやっていただけるとありがたいというような気持ちでお話したと思います。私の立場としては、若い人から意見を聞いて、高士まつりをさらに若い力で盛り上げるようにしていただきたいということで、そういう人たちを対象にして話をしていきたいなと思います。

【塩坪会長】

その意見は前からよく出ていましたが、若い人によく出てもらいたい。若い人に対して「我々とどういふのをやりたいのか」ですとか、そういうのを示してやらないと、若い人も集まりにくいんじゃないかと思います。若い人の意見を聴くにはどうしたらよいのかということだと思います。

【保坂委員】

そういう機会を作ってもらいたいとおっしゃった通りです。

【塩坪会長】

だから、機会を作るにはどうしたらよいかと。何か、鶏の卵みたいな話になっていますけど、皆さんから良い意見を出してもらって、これをまとめていきたいと思っていますし、会を開くための案を皆さんから出してもらいたいと思います。

【保坂委員】

ただ、漠然と若い人と話すと言っても、対象をどこへ絞り込むかっていう話もまた、若い人から集まってもらうようにしなければいけませんしね。いくらやるといっても、人が集まって来なければ、これもどうにもならない。そこら辺で、どういう人から集まってもらうかっていうところも、大事かもしれないですね。

【塩坪会長】

私の言い方もちょっとよくなかったと思いますが、ワークシートを見ていただいて、意見交換会のテーマが何も無いままで、集まって若い人の意見を聞きたいというだけでは、駄目だと思うんです。テーマを設定して、意見交換をしていったほうがよいと思います。「若い人から何を聞き出したいのか」ということをテーマに考えて行きたいと思います。

それについては、まず聞き出したいことのテーマを設定する。2番目には、PTA、や消防団など、どういう人を対象にするのかを決めていけばよいと思います。皆さ

んから提案していただきたいと思います。

【飯野委員】

スポーツをやるとかそういうのもよいですけどね、基本的にはやっぱり、減少傾向にあるんだよね。ひとつの町内で、ある程度年齢になると自然淘汰でね、その世帯がだんだん減っちゃうと。でも、残っている家ってあるんだよね。その人たちは、この町内をどうするんだというようなどこからやって、じゃあ地区としてどうするんだ、というような形で持っていけばよいかと思います。

【塩坪会長】

それも、ひとつの方法ですね。若い人たちに町内の発展をどうするかという目標を考えて集まってくださいと、いうふうにするということですね。あとはありませんか。

【中川委員】

今の意見に対してですけど、これから益々過疎化が進んでいくと思うので、飯野委員から出ましたけど、これからの高士地区をつくっていかれる若い人たちが、どういうことを思っておられるのか、どういうふうに進んでいくと思っておられるのか、そういう意見を聞くだけでもよろしいんじゃないかなと、計画的に進めたらどうだろうと、そう思います。

【塩坪会長】

あと、ありませんか。

【横山委員】

私も今、飯野委員と中川委員がおっしゃったように、若い人たちがどういうニーズがあるのかは、私も実際は分かりません。結局、これからどんどん人数が減っていくかも知れないところで、このままずっと外に出ずに、ここに住んでいくつもりがあるのかということが1つ。それから、住んでいくのであれば、自分達も今は若いかもしれないけど、将来はだんだん年を取っていくので、自分たちの子供たちが大きくなっていくときに、高士にどういうふうになっていて欲しいというイメージを持っているのかどうか。そういうことも考えているのかどうか。全く考えていないという人もいるかもしれないし、そういうことは大人が考えてくれることと思っていて、自分たちはまだ全然考えていない状態かもしれないし、その辺を聞いてみたいですね。

それからもし、今まで考える機会がなかったのであれば、今後どうしていきたいと思っているのかを聞いてみたいですね。きっと、やりたいこともあるのでしょけれど、

今までそういうことを考えたことがないと思うので、実際にどういうことをやって行きたいのか、どういうふうに高士を自分たちがこれからも住んでいく地域を盛り上げて行くかということを知りたいと思います。

【塩坪会長】

ありがとうございます。

【飯野秀一委員】

今言われたことに尽きるのではないですか。

【塩坪会長】

それで、結構ですか。今、横山委員が言われたように、高士地区の発展をどうするのかをテーマとしていってもよろしいですか。他にどうですか。

【飯野秀一委員】

まず第1は、若い世代に高士まつりをやった方がよいのか、やらなくてもよいのかってところから、聞いてみたいですね。今は何年も続いているわけだから、我々が行う意義みたいなものがあるとは思いますが、若い方は意義をどういうふうに持っているのか、ということを知りたいですね。それで、若い人たちが「高士まつりでこんなことをやりたい。こんなことを今後やっていきますよ。」というところまで聞き出せれば一番よいですね。

【保坂委員】

高士まつりについては、若い人たちがどういうふうに思っているのか、まずはそこだと思います。毎年やっているけど、どういうふうに思っているかっていうのを、まず聞かせてもらいたいですね。

参加できるかってことを聞いてみて、できたら若い人にやってもらいたいっていう方向に持って行けばよいかなと思います。

【飯野秀一委員】

時期の問題もあるね。たまたま、上越祭りや謙信公祭と大体ぶつかるのだよ。そうすると、向こうに行っちゃうということがあると思います。

【保坂委員】

だから、そういう意見を聞きたいと思います。謙信公祭とぶつからないようにすれば、出してもらえるのか。または、謙信公祭とぶつからなくても、あんまり面白くないから出ないという意見もあるかもしれません。「高士まつりで、どんなことをしたら参

加してくれますか。」というような問かけもしてみたいです。

【塩坪会長】

それでは、テーマとして高士まつりについて、意見が出ましたけど、それ以外で、他に出して、それを今度次の段階で、どうするかってことをやっていけばよいと思うんですけどね。

私が言いたいのは、意見交換会の案内を出すとかね、皆さんにチラシを出すとしても、話の内容をお知らせして「今回は高士まつりのことについて話し合いをします」と出したほうが集客率がよいのではないかと思います。

【保坂委員】

「高士はだんだん人口が減っているのだけど、その中で高士に残っている理由」とか。「高士をもうちょっと活性化するには何かよい意見はあるか」とか、その様なことを若い人の観点から聞いてみたいですね。

【塩坪会長】

そういうのを、どしどし言ってもらえればよいと思います。

これからずっと、この資料の方針に従って、最後のアクションまで持っていくわけですから。最初の頭をしっかりと決めていっていただきたいと思います。

【飯野秀一委員】

体育協会の立場から言うと、スポーツをメインにして、ニュースポーツでもよいし、グランドゴルフでもよいので、若い世代がどんなスポーツをやりたいかを把握し、そのスポーツを通して集まるようなかたちを作るのが大事だろうと思います。

【塩坪会長】

他にご意見ありませんか。

【恩田係長】

ご意見の掘り起こしということで、事務局から少し発言させていただきます。

(ホワイトボードで図を書きながら説明)

高士区の方がこの位とします。その中で皆さんは、この中のこの位なわけです。皆さんと同じような考え方をされる方が、このくらい居たとしましょう (A)。ですが、こちら側の大多数の方々 (B) が考えていることは分からないわけです。横文字になってしまいますが、こうゆう方々 (B) のことを、「サイレントマジョリティ」、「声なき多数派」と言ったりします。行政も民間企業さんも同じだと思いますが、この多数派

の意向を考えないと失敗する。多数派のことを十分踏まえないで失敗した事例は沢山あるのです。

今、「持続可能なコミュニティのあり方」についてお考えですが、その目標に到達するためには、なるべく多くの人と、当事者意識を共有するような形で進んでいかなければいけないと思うのです。

－ 複数の事例を紹介 －

今後の意見交換会、その他の手法を実施したとして、漠然と「高士をどう思いますか」、「将来もずっとここにいますか」と投げかけても、一問一答で終わってしまいます。そうならないために、沢山のネタを発言いただくと、それらの実施効果、得られるものが高まろうかと思えます。

地域課題等を一発で解消する大砲のようなものは、なかなかありません。ピストルのようものをポコポコ打って、その中で何発か当たる、その当たったものが、今後の展開の蓄積になるのだと思えます。

皆さまが当たり前だと思っていること、けどもそれは多数派の考えとは違うかもしれないという視点で、身近なこと、将来のことを少し掘り下げてお考えいただき、ご発言いただけると幸いです。

【小林委員】

今、話を聞いていると意見交換のテーマが「スポーツ参加交流」、「高士まつり」って、なんとなく決まっているんですね。このテーマだったら、誰も来ないと思うのですよね。「高士まつり」は毎年やっているのだから…そうじゃなくて、他に何かないかっていうのを、もっと若い人の意見を出してもらいたいです。その中で、高士まつりはこのまま続けてもらいたいか、スポーツ活動にもっと参加したいとか、そういうものが出てくるんじゃないかなと思います。最初から高士まつりの参加とか決めてしまったら、活発な意見交換にならない気がします。

【保坂委員】

ピストルの弾ね。

【小林委員】

若い世代って本当に難しいですね。20代でもPTAになっていたり、30代後半でもまだだったり。今、こうして見てみると消防団に入っている人たちが一番燃えているような年代じゃないかなと思います。消防団は1世帯から必ず1人は出なくち

やいけないみたいなので、そういう人が高士に残っている人たちなので、なんとなくその人たちが大事な年代じゃないかなとは思うけど。

【塩坪会長】

若い世代っていっても漠然としているわけですよ。

【保坂委員】

この次の段階で若い人を絞って、どうやって集めるか考えないといけないんだよね。そのためにも、まずはテーマを決めなくてはいけないと思います。

【塩坪会長】

高士地区をよくしたいと思っている人は40代でも50代でも若い人と思うということで、考えていただいてもよいし、また、こだわる人もいますしね。若い人って、おれは50代だから出たくないと言う人もいるかもしれませんが、そこら辺は考えてもらって、あまり時間が経つと困りますので、今日はこのテーマだけでも決めていただいて、次はテーマに沿って、対象者をどうするかということを決めたいと思います。

【横山委員】

何を出したらよいのか難しいのですが、その「声なき多数派」に意見を出してもらうためには、どこをもっと具体的にすればよいのか、どうすれば出してくれるのかです。こっちとしては、今言ったみたいなことを聞いてみたいわけですよ。だけど、そうやって投げかけたところで、積極的に「はい」と言ってくれる人はいないでしょう。だから、この仕掛けが必要なわけですよ。そのテーマを導き出すためには、何を出せばよいのでしょうか。

【中川委員】

係長が言ったように、ピストルの弾がいっぱい必要ですよ。

【横山委員】

ピストルの弾ですよ。だから、何をピストルの弾として使うかが大切です。

【飯野秀一委員】

追従のような話をして悪いんだけど、例えば体育大会あるよね、そこで綱引きがあるんだ。すると、男女も入るし、若い人も年寄りも入るのだよ。それで、勝つチームは燃えるのだよ。負けるところは最初に負けちゃうけど。それでもよいんだ。やはり、そこで世代間のコミュニケーションがあるのだと思う。

だから、ひとつの模範例として、優勝したチームが終わって一杯飲むと、非常に盛

り上がると、そういう雰囲気をやっぱり作っていくことが、コミュニティの維持には大切ではないでしょうか。

【中川委員】

世代を越えて、飲む機会を設けるのはよいかもしれない。

【飯野秀一委員】

それが一番よいのだよ。

【嶋田委員】

先ほど、3つほど提案されたけど。あと、若い人たちに「思っていることを何でも言ってくれ」と。これでもよいのではないかと思います。何でもよいから意見を出してくれと。それも、ひとつ入れたらどうかと思います。言いたいこと素直に言ってもらおう意味で。

【飯野秀一委員】

それはそうですね。

【保坂委員】

言いたいこと言ってもらって、Q&Aを出してもらえればよいと思うのですが、どうでしょうか。

【太田委員】

「何でもよいから出してくれ」というと、自分がそれを言ったことで、責任を持たないといけませんとか、そういうのが、若い人たちは好きではないと思います。なので、意見を出したところで、「あなたは責任を持たなくてよいです」というような雰囲気が必要ですね。それと、いきなりこういう所に来て、「こういう事に関して話し合いたいと思います」と言って、上手く導き出すようなテーマを作ったとしても、なかなか現実には難しいと思います。

例えば、消防団なら消防団とかママさんバレーならそのグループに対して、もしこのような働きかけをするのであれば、あらかじめ各団体とかで話し合っておいてもらって、自分達だけで、まず話し合ってもらえば結構、正直な意見が出ると思うんですよ。その上で、グループの意見として出してもらおうとかしないと、いきなり「はい」と言う人はなかなか出てこないと思います。なので、その仕掛けを作らないといけないのかなと思います。

【保坂委員】

対面方式にしちゃうと、なかなか喋られないよね。

【横山委員】

この前、たまたま30代40代の、小さいお子さんのいる人たちと話す機会があったのですが、結構真剣に考えているんですね。「しっかり考えているんだな」と驚きました。例えば、「公民館を利用して料理教室をやってみたい」ですとか、皆さん小さい意見はあるのですが、今までそういう機会もなかったし、発言する機会もなかったし、そういう公民館主催の行事があっても、その行事を知らなかったりしています。

私も2年経ってやっと分かってきました。高土区の振興協議会だとか、婦人会だとか、高土区はボランティアでやっている団体が他の地区と比べると凄くたくさんあって、他と比べられないくらい活性化しているというのを、私も実際にやっと分かってきたという状態です。なので、若い人たちは、高土まつりはどういう団体が主催して、その団体がどういうことをやっているのかという仕組みすら分かっていないんじゃないかなと思います。ですので、そういうことを知ってもらうのも、興味を持ってもらうひとつなのかなと思います。先にテーマを与えておいて、少し若い世代で話合ってもらってから、意見交換会を行うというのもひとつだと思います。

【中川委員】

あまり、形式的な会議にしてしまうと上手くいかないですね。

【塩坪会長】

形式的になると、出てこない人もいるし、「責任を持たなくてはいけない」というような考えになると、意見を言わない人も出てくるでしょうし。好きな事を好きに言ってもらえるようなこともよいと思います。

【小林委員】

ひとつは、先ほどの消防団やバレーボールチームや、スポーツを何かやっている人たちとか、団体はいっぱいあるんだから、その中の意見としてまとめてもらって。あとは、学校のPTAの役員の人たちにも協力してもらったらどうでしょうか。小さいお子さんがいるし、これから住んでいく人たちなので、前もって連絡しておいて、「テーマについてご意見はいかがですか」と聞いたらよいと思います。

【塩坪会長】

小林さん、ワークシート②の対象者のことですか。テーマを決めていただいて、方向性が伝わって、皆さんに集まっていただいて、意見を出してもらいたいということ

が第1段階ですので。あまりテーマが出ていまして次に進めません。

【小林委員】

思っていることを意見として、全部言ってもらってはどうか。テーマを絞ってしまうと、なかなか出ないかもしれない。

【塩坪会長】

出てきて、絞るという手もありますね。

今日は、ある程度進みましましたので、これで打ち切りたいと思います。

皆さん、正副会長で2, 3点に絞って次の会議で皆さんから了解をもらうか、次もこのまま続けるか、どちらにしますか。

【飯野秀一委員】

お任せしますよ。いつまで経っても進まないですし。

【塩坪会長】

そのうち、何か行事が入れば、終わらないうちに任期が終わってしまいますし、できるだけ早く、ひとつでもまとめたいと思います。

4 その他

【塩坪会長】

では、4その他、次回会議について決めたいと思いますが、次回は7月22日、午後6時30分から公民館高士分館の中会議室で行いたいと思いますがよろしいでしょうか。

ーよしの声ありー

5 閉会

【塩坪会長】

いつもは副会長から閉会のあいさつをしていただいておりますが、今日は欠席ですので、私からあいさつします。今日の議題は全て終了しました。ありがとうございました。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。